第１学年１組　算数科学習指導案

令和５年６月１５日（木）　第３時限　教室

１　単　　元　　たしざん（１）　（７時間完了）

２　単元目標

（１）　たし算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、合併や増加の場面をたし算の式に表し、計算することができる。（知識及び技能）

（２）　問題文から合併や増加の場面を捉え、同じたし算であると考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

（３）　たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

３　単元構想

本学級の児童は、好奇心旺盛な児童が多く、算数の学習にも積極的に取り組んでいる。１から 10 までの数の概念を知り、正しく読み書きをしようとする姿も見られる。「いくつといくつ」の単元では、数の合成や分解を学習してきた。児童は、６から 10 までの数がいくつといくつで合成されているかについて数図ブロックの操作や、カードを２枚めくって決まった数を作るゲームなどを通して答えを導き出すことができた。さらに、「いくつといくつでしょう」と友達に問題を出し、楽しく関わり合いながら学習の定着を図ってきた。しかし、新たなゲームを行っても前のルールで取り組むなど、言葉の意味を理解できていなかったり、話を最後まで聞くことができていなかったりする児童もいた。そのため、相手の話を聞かせ、言葉の意味を理解させることが、正しく問題を読み解く力になると感じた。

本題材「たしざん（１）」は、初めて計算を行う単元である。問題文からどんな場面かを想定し、「合併」と「増加」によって数を求めることを学ぶ。また、式のかき方やよみ方、計算の仕方など算数の基礎となる単元である。最初は具体的事象を数図ブロックの操作を通して、式にかくという数学的活動へつなげる。たし算で解けることを理解し、単に場面を式でかくだけでなく、式にかいた後に数図ブロックの操作をして、具体的な場面の理解を深めることもねらいとしている。たし算の意味が定着できるように、数図ブロックの操作を他者へ伝える活動を取り入れていきたい。説明を聞く機会を増やすことで、相手の話を聞くことができるとともに、言葉の意味を理解できるようにしたい。

本単元では、第１、２時に「合併」の場面から、たし算を知り、たし算の式にかいて答えを求めるところから始まる。実際に数図ブロックを操作することで「あわせて」の動きを理解し、岩場に上陸するカエルが合わせて何匹になるかを考える。また、数図ブロックの操作の際に、「みんなで」や「ぜんぶで」という言葉がたし算の言葉であることに気付かせたい。これらの活動から、たし算の記号や式の意味を理解し、問題文を式に表すことの便利さを感じさせたい。第３、４時に「増加」の場面を理解し、たし算の式をかいて答えを求めていく。前時までとの相違を数図ブロックの操作から気付かせ、言葉の意味を理解できるようにする。「ふえると」や「くると」がたし算の言葉であることに気付かせ、出てきた言葉を大きな紙へ書きまとめていくことで、たし算となる言葉を覚え、すぐに立式する助けとしたい。

本時となる第５時は、「合併」と「増加」のどちらの場面かを問題文から判断し、たし算の式に表して問題を解いていく。友達の説明を繰り返し聞くことで、問題文から「合併」や「増加」の場面を適切に捉え、数図ブロックを操作して計算したり式にかいたりできるようになることを目標とする。最初に、前時までに学習した「合併」や「増加」の数図ブロックの動かし方を振り返る時間を設ける。その際に、前時までの掲示物を掲示する。そうすることで、既習事項を踏まえて、本時での問題文の場面を理解し、解くことができるのではないかと考える。最初は、問題文を読み、たし算の言葉に線を引かせ、問題文の場面を想像させる。また、教科書にある「しろいやぎ」と「くろいやぎ」の絵の上にそれぞれの色に合わせて数図ブロックを置かせることで、問題の意味を把握できるようにする。さらに、数図ブロック置きシートを活用する。そうすることで、児童は式の順番に数図ブロックを操作することができ、式や記号の意味を理解できるようになる。また、数図ブロック置きシートには「１ばんめ」「２ばんめ」と記載し、児童が順序立てて説明できるように支援していく。

第６、７時では、たし算カードを使って、たし算を習熟させる。たし算は算数学習において最も基礎になるものである。たし算カードを使って、繰り返し練習させるだけでなく、カードを使ったゲームを積極的に取り入れ、楽しく繰り返し学習できるような工夫をしたい。どの児童も 10 までのたし算をすらすらとできることを目標とする。

本単元を通して、相手の話をきちんと聞き、友達と関わり合いながら言葉の意味を捉えて正しく問題を理解し、積極的に取り組む姿に期待したい。そして、算数の基礎となるたし算を習熟させ、その式やたし算の意味を理解できる児童の育成を図りたい。

4　指導計画（7時間完了）

学習活動	教師の手立て	時
合併の場面を理解し、たし算の式を知り、式にかいて答えを求める。	・ 数図ブロックの操作から、「あわせて」の言葉の意味を捉えさせる。 ・ 「あわせて」という言葉に線を引かせたり、声に出させたりすることで、着目させる。 ・ たし算で使う言葉をまとめ、掲示する。 ・ 数図ブロックの操作を繰り返し行ってから、式の表し方を教える。 ・ 答えの単位に気を付けられるように、問題文に注目させ、問われていることを一緒に確認する。 ・ たし算の意味が定着できるように、チーム学習で友達から数図ブロックの操作の仕方を繰り返し聞くことができる機会を作る。	2
増加の場面を理解し、たし算の式にかいて答えを求める。	・ 数図ブロックの操作から、「ふえると」の言葉の意味を捉えさせる。 ・ 「ふえると」という言葉に線を引かせたり、声に出させたりすることで、着目させる。 ・ たし算で使う言葉をまとめ、掲示する。 ・ 数図ブロックの操作を繰り返し行ってから、式の表し方を教える。 ・ 答えの単位に気を付けられるように、問題文に注目させ、問われていることを一緒に確認する。 ・ たし算の意味が定着できるように、チーム学習で友達から数図ブロックの操作の仕方を繰り返し聞くことができる機会を作る。	2
問題文から合併や増加の場面であることを捉え、たし算の式にかいて答えを求める。	・ 前時までにまとめた言葉を掲示する。 ・ 問題文から、たし算の言葉を探し、線を引かせたり、声に出させて着目させることにより、立式できるようにする。 ・ 場面に合わせて正しく数図ブロックを動かすように指示する。 ・ たし算の意味が定着できるように、チーム学習で友達から数図ブロックの操作の仕方を繰り返し聞くことができる機会を作る。	1 (本時)
たし算カードを使って、たし算の練習を行う。	・ 意欲的に学習させるために、たし算カードを使って、「おおきさくらべ」や「かあどとり」などのカードゲームを行う。	2

5　本時の学習計画（5／7）

（1）目　標

友達の説明を繰り返し聞くことで、問題文から合併や増加の場面を適切に捉え、数図ブロックを操作して計算したり式にかいたりすることができる。　（思考力・判断力・表現力等）

（2）準　備

①　児童・・・ア　筆記用具　　イ　数図ブロック　ウ　数図ブロック置きシート

②　教師・・・ア　教師用数図ブロック　イ　拡大した数図ブロック置きシート　ウ　たし算の言葉が書かれたもの

（3）展　開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
導入 (5)	1　前時の活動を振り返る。 ・「ふやすと」でたし算を勉強したよ。 ・数図ブロックを動かして考えたよ。	・たし算に関する言葉を児童へ問いかけ、まとめたものを黒板に掲示する。 ・数図ブロックの動かし方を確認する。
課題 (3)	2　本時の学習課題を知る。 もんだいを　しきに　かこう	・学習課題を書く。
展開 (32)	3　教科書Ｐ46①の問題を読み、自分で考えてノートへ式をかく。 ・「ぜんぶで」と書いてあるから、たし算かな。 ・式は、3+4 だね。	・問題を正しく把握できるようにするために、たし算の言葉に線を引くように指示する。 ・式を書く前に、数図ブロックを数図ブロック置きシートに置き、動かし方を確かめるように伝える。
	4　チームになり、どのような式になったかを数図ブロックを使って話し合う。 ①全員の式を確認する。 ②数図ブロックを操作しながら、自分の考えを伝える。 ③友達の説明を聞きながら、数図ブロックを動かす。 ④全員の発表が終わったら静かに手を挙げる。	・式を立てるだけでなく、計算の仕方を説明することが本当の意味で理解したことであると伝える。 ・友達の説明を聞いて、「なるほど」や「もう一度説明して」と反応している児童を称賛する。 ・説明に支援が必要な児童には、数図ブロック置きシートに書かれた言葉から順に説明するように伝える。
	5　全体交流をする。 ・一番目に、数図ブロックを３つおきます。 ・「ぜんぶで」だからたし算だと思います。	・順序立てて説明している児童を意図的指名する。 ・発表した児童の説明を聞き、自分の机上で数図ブロックを操作するように伝える。
	6　教科書Ｐ46②の問題を解く。 ・「あとから」って書いてあるから、たし算かな。 ・式は、5+3だね。	・支援が必要な児童に、「数図ブロックはいくつ用意しますか」と問いかけ、数図ブロックを動かすよう支援する。 ・「やってきた」という言葉に戸惑う児童が複数いる場合、言葉の意味を全体で確認する。
整理 (5)	7　本時のまとめと振り返りをする。 ・問題を式にかくと、考えやすいね。 ・数図ブロックを使うと、説明がしやすいね。 ・「ぜんぶで」はたし算になるんだね。	・数図ブロックを使ったことでよかったことや問題を式にかくよさについて振り返って発表している児童を称賛する。 ・数図ブロックの意見が出た時には、教師用の数図ブロックを使って黒板で操作する。

（４）評　価

友達の説明を繰り返し聞くことで、言葉の意味を正しく理解して合併や増加の場面を捉え、問題を解くことができたか。（活動４、５、６の児童の様子から）